

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」

第15号 1991. 9. 5

発行

北海道ポーランド文化協会
〒060 札幌市中央区北2西2
道特会館 NDA画廊内
電話 011-221-8672

ポーランド週間を

終えて

昨年の十月から企画を練っていた「ポーランド週間」は、六月十七日から二十九日まで、正確には十三日間にはわたって多彩に催されました。

ポーランドの絵本の展示と原画展、ポーランドの児童画、人形、手芸品などの展示とポーランド憲法二百年展の二つは期間中を通して行われました。

この展示は、原画、人形、民族衣裳、手芸品など、貴重な品々を快くお貸し下さった多くの方々のご協力があったてきたものです。

その他、次のような催しを行いました。

六月二十一日(金) 内田莉沙子氏の講演会「ポーランドの児童文学」

参加者は国際交流ブラザ会議室の定員びつりの五十一名。協会員以外の参加者は長年の莉沙子さんファンが多く、なごやかで心あたたまる

会でした。翌二十二日、すみれホテルで「莉沙子さんを囲む会」が開かれ、十七名が参加。この会も和気あいあいのたのしい会でした。

六月二十五日(火) 遠藤道子氏のお話とスライドの会「国際ショパンコンクールの歴史」―会場のタムズホールがいっぱいになるほどの盛況ぶりでした。第一回から現在までのコンクールの優勝者をとりあげた講演というのは、これが最初で、たいへん貴重なお話でした。老若男女さまざな人が参加して遠藤先生のお話に聞き入りました。この会を通して、ポーランドという国に関心を持ってもらい、ひいてはポーランド協会の存在を知ってもらえたのではないかと思います。(参加者数百名)

六月二十六日(水) 熊倉ハリーナ

氏の講習会「ポーランド料理の会」―この企画は大ヒットで、受講希望者が殺到し、担当者はおことわりす

るのに一苦勞したようです(定員四十名)。ハリーナさんも大奮闘で、おいしいメニューを考えて下さいました。男性の方々にも多数参加していただきたかったです。皆さんの都合でまなならず、わずか緑二点の参加となりました。食べ物の魅力の大きさに改めてびっくりしました。この日、協会への入会者もありました。

六月二十七日(木) 伊東孝之氏の講演会「民主主義の実験は成功するか?」―今回の行事の中で一番かたいといえるこの講演会は、会場が天神山国際ハウスという都心部から離れた場所だったにもかかわらず、会場にあてられた会議室はほぼいっぱい。協会員以外の参加者も約三分の一ほどいました。(参加者数二十八名)。

伊東先生のお話は、一般の人にもわかり易いものでした。食べ物に関する話など生活点描もあり、興味を引きました。参加者は無理なく現在のポーランドの国情について知ることができたと思います。

ポーランド週間前半は、展示以外は講演会が一つだけでしたが、後半は三日連続の目白押しで、関係者は大忙しの様子でした。どの企画にも

大勢の参加者があり、たいへん盛況でした。このような催しは初めてなので、はたして人が集まるかと危ぶんだむきもあったようですが、結果は大成功といいいでしよう。ポ
ーランド週間を通じて、いろいろな

人がポーランドを身近に感じ、札幌に「北海道ポーランド文化協会」という会があって活発に活動していることを認識したのではないでしようか。
(編集部)

伊東孝之氏の講演に参加して

小笠原 正明

東欧問題の第一人者であられる伊東先生から、最近のポーランド情勢をうかがいました。共産主義体制の崩壊という世紀末の大変動のさなかで、東欧は、ポーランドはどのような方向に向かうのだろうかという素朴な疑問をいだいて、この講演会に参加しました。

伊東先生はまずヤルゼルスキーの生い立ちから話を始められました。サングラスをかけた不可解な人物という私の認識は表面的なもので、じつは彼は貴族の家柄の、伝統的なポ
ーランド知識人の典型であるという

ことでした。一九八九年の総選挙におけるこのようなヤルゼルスキーのエリート主義の敗北、積極的に市場を導入したマゾビツキー政権の経済政策、ややこっけいなワレサとティ
ミンズキーの大統領選挙での一騎打ち、ワレサ政権のもとでの困難な民主主義の制度化、という順番で話は進められました。雑談をまじえながら、複雑で奥行き深い問題をだれにでもわかるように話していただきました。

現在のポーランドは、教会の政治介入、大統領や連帯への信頼感の低

ハリーナさんを囲む

楽しいポーランド語

●第八期のポーランド語講習会を開きます。

今期はまた初級にもどって、ポーランドの小学校一年の教科書を使用し、ポーランド語のイロハから勉強します。わかりやすく楽しい講座にしたいと考えています。

【期 間】 一九九一年九月十一日(水)より毎週水曜日十週間

【時 間】 午後六時三十分から午後八時三十分までの二時間

【会 場】 北海道クリスチャンセンター

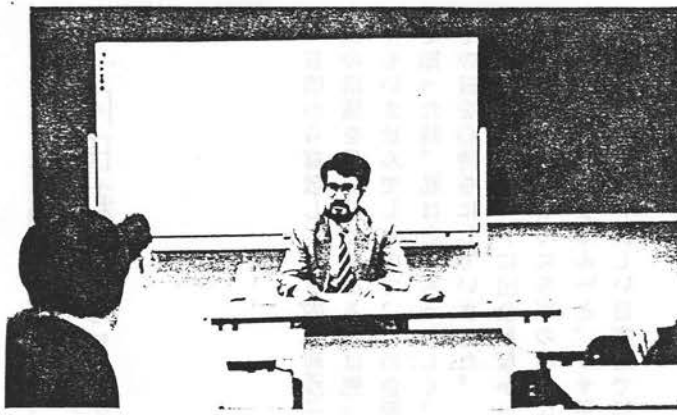
(住所) 札幌市北区北七条西六丁目
(電話) 七三六一三三八八

【講 師】 熊倉ハリーナ先生

【授業料】 一万円二千円(十回分)

【申込先】 灰谷洋子(札幌市東区北四十条東十丁目、
電話七〇二一 四九三九)まで。

下、商業の発達とそれとうらはらな工業生産力の著しい低下など、困難な問題をたくさんかかえているようです。したがって、ポーランドはどのような方向へ向かうのだろうかという私の素朴な疑問は、結局は疑問のまま終わりましたが、テレビや新聞などで報道される表面的なニュースの背景にある問題を、少しは理解できたような気がしました。



好評だった

ポーランド料理講習会

灰谷 洋子

六月二十六日、熊倉ハリリーナさんを講師に、初めて催されたポーランド料理講習会は、大好評のうちに無事終わりました。

私たち手伝いの者三人「山本栄子、清水保子、灰谷」とハリリーナさんとでスーパを数回見てまわり、ハリリーナさんのお考えで次のようなメニューに決まりました。アスパラのクリームスープ、ごはん入りのロールキャベツ（ポーランドではお米は野菜の一種なのです）、ヨーグルトソースのサラダ、デザートにいちごのクレープです。

献立作りは、ポーランド語講座の生徒さんでもある清水さんが、辞書と首っぴきで作りました。募集人数は四十名の予定だったので、申し込みが殺到して多数の方をお断わりすることになり、申しわけなかったと思っています。

さて、外はうだるような暑さの当日、男性二名をふくむ四十三名が婦人文化センターに集まって下さいました。

ハリリーナさんのとてもお上手な日本語の説明で、和気あいあいとポーランド料理の出来上りです。試食をしながら、いま何かと人気の高いポーランドのお話をハリリーナさんにしていただき、みな様とても満足そうでした。その後、数人の方から電話があり、家に帰ってさっそく夕食に作ってみたのですが、とても評判がよかったです喜んでくださいました。

日本のちようど裏側のポーランドが、すぐ身近に感じられた一日でした。またこの講習会の模様は、HBCのテレビポート6で、ポーランドの台所というタイトルで放映されました。



内田莉沙子氏の講演を聴いて

柏原 朝子

日頃から尊敬している内田莉沙子氏の講演を目の前で聞けるとは思ってもいませんでしたので、この企画を知った時、私はとてもうれしく、その日を心待ちにしていました。「もしポーランドに出会わなかったらば、今日（こんにち）の私はなかったかもしれない」と、リサ子さんは、やさしい美しい日本語で話し出されました。

生い立ちから始まり、「露文科を選んだ理由、ポーランドの児童書との出会い、ポーランド留学のいきさつなどを、時にはユーモアをまじえて感動的に話してくださいました。ワルシャワ留学はしたものの現実はいきびしく、本をさがして本屋を歩き回ったり、出版社に向いたり、日本では考えられないような苦労話も聞かせてくださいました。このような



「ご苦勞の中から、「灰むすめ」のような昔話から「すばらしいフェルデナンド」のような現代物まで、次々と名訳が生まれていったのでした。莉沙子さんはポーランドの児童書の魅力を、地味で盛り上がりには乏しいが、説教くさがなく、内容に意

外性や自由な雰囲気があると述べられました。

情熱的でみずみずしさのあふれたお話に、心が洗われ、久しぶりに豊かな満足感を味わわせていただきました。ありがとうございました。

遠藤道子氏の「国際ショパンコンクール」の歴史を聴いて

安田 誠子

「ポーランド」、何とひびきの良い名前でしょうか。まだその国を訪れたことのない私ですが、目に浮かびます。ショパンの生家、ショパンの眠っているお墓、そして野外コンサートも行われるワジェンキ公園。その文化の国ポーランドが誇る「国際ショパンコンクールの歴史」について、遠藤道子先生の講演が、六月二十五日、タムズホールで行われ、ショパンコンクール優勝者の演奏の録音テープとスライドが紹介されました。先生の静かな語り口に吸

い込まれながらも、演奏者たちの厳しい日々のあることを知り、身の引き締まる思いで拝聴しました。

ショパンコンクールは一九二七年に初めて行われ、八ヶ国二十六名の参加で幕が切って落とされました。日本の参加は第五回、田中希代子さん（第十位）が最初です。北海道が誇るピアニスト遠藤郁子氏は、第七回、第八回と出場して、すばらしい成績をあげてポーランドの人々から絶賛をあげたのはみなさんご存知の通りです。第十回はダンタイソンが



アジア人で最初の優勝者となりました。昨年行われた第十二回コンクールは、ジャパンマナーが飛びかい、あまり好ましいコンクールではなかったようです。

先生は沢山の資料を準備され、シヨバンコンクールの足跡を丹念にお話して下さいました。多忙な日々をすごされている先生が、いつこの準備のための時間を作られたのか不思議に思うとともに、ただただ尊敬申し上げます。

ポーランド国立放送交響楽団

芸術監督 / アントニー・ビット

ピアノ / ヤーノシュ・オレイニチャク 70年シヨバン国際コンクール入賞
映画「ブルーノート」でシヨバン役

ピアノ / 有森 博 90年シヨバン国際コンクールで
「アリモリ旋風」をまきおこし、最優秀演奏賞

11月19日(火)7:00 市民会館大ホール S ¥8,000 A ¥6,000 B ¥5,000

プログラム

シヨバン: ピアノ協奏曲第1番 (有森 博)

シヨバン: ピアノ協奏曲第2番 (オレイニチャク)

シューベルト: 交響曲第8番「未完成」



●「どんなに苦しめられ破壊されても音楽は残る」～ポーランド、ワルシャワのワジェンキ公園のシヨバン像基部に刻まれている詩人ミルケビッチの詩の一節。28年ぶりに来日するポーランド放送響のシヨバン / ●ルービンシュタインの援助と指導をうけポーランドの血をそのもののシヨバンを弾くオレイニチャクと現代日本の才能豊かでセンシティブな若者・有森 博～二人のシヨバン /

ポーランド国立放送交響楽団

北海道公演に寄せて

赤島 尚子

私は卒業以来ピアノを教えています。毎日が「ピアノ人生」で、狭い範囲ですがいろいろな人とのふれ合を通して自分のアイデンティティを育てております。

ポーランドはショパンの国

私のポーランドの知識につきましても、いま考えますと、小学校の頃はキュリー夫人、中、高校生になってもコペルニクスやショパンとの結びつき以外には思い当たるものがありません。短大に入ってから、しばらく映画にのめり込んだ時がありまして、ポーランド映画を幾つも見、大戦中のポーランド国民の抵抗や悲劇に涙を流したこともありました。ポーランドの誇るピアノリスト、ルビンシュタインやパデレフスキも知りましたが、やはり、ポーランドはショパンの国ということで、ポーランドはショパンの思い入れが強くあり

ました。

昨年十月、第十二回ショパンコンクールの三次予選から本選まで、直接見聞きする機会を得ました。その経過と結果につきましても省略させていただきますが、三次予選進出者十四名の演奏は、新鮮で個性的で、それぞれが「自分のショパン」を表現しようとしているのが私にも理解できました。私には二度目のワルシヤワでしたが、ショパンの生地ジュラゾヴァ・グォーラの静寂と美しさ、聖十字架 会でのモーツァルトのレクイエム、ワジャンキ公園など、それらがどんなに素晴らしいことか、思い出しますと胸が熱くなります。

札幌でピアノコンチェルト

今年の十一月十九日に札幌で、二十一日に旭川で、北海道芸術鑑賞協会主催によるポーランド国立放送交

響楽団の演奏会が二十七年振りに実現します。ショパンのピアノ協奏曲

第一番、第二番などを演奏します。

指揮はアントニー・ヴェットさん、

ソリストは一九七〇年第八回ショパン

コンクールで入賞しましたポーラ

ンド出身のヤーヌシュ・オレイニチ

ヤクさんと昨年のショパンコンク

ールで最優秀演奏賞を受賞しました有

森博さんです。オレイニチャクさん

は一昨年「NHKスペシャル・私の

ショパン」で紹介されていますので、

ご存知の方も多いと思いますが、

「ショパンは我が魂、我が肉体の一

部」としてショパンに同化しようと

する心を込めた演奏は、きくと聴衆

に大きな感動を与えることでしょう。

オレイニチャクさんは、また、今秋

公開予定のショパンの伝記映画「ブ

ルー・ノート」(悲しみの調べ)で

自らショパンを演じていらっしゃる

ます。有森さんは、今年五月、札

幌と苫小牧で北海道楽器主催によるリサイタルが開かれました時、私がショパンコンクールを見学しました。ポーランドでも「アリモリ旋風」という言葉が生まれたくらいにたいへんな人気でしたが、テンペラメントあふれた演奏、それでいて誰にでも親しみやすい個性で、沢山のファンを増やしていました。

一人でも多くの方々に：

「ショパンは誰が演奏してもその人のショパンなのだ」という主張もあります。ヴェットさんは、ショパンをどのように表現するのでしょうか。オレイニチャクさんや有森さん、楽団の方々がどういうショパンを演奏してくれるのか、「祖国ポーランドの旋律」も聴けるのか、待遠しい気持でいっぱいです。私は演奏会の成功を祈って応援しておりますが、一人でも多くの皆さまにお聴きいただけたらと思っております。

「ポーレ」編集委員会

小笠原正明・斎田道子

清水保子

〔連絡先〕621-1738(斎田)

POLE 第 15 号(1991.9.5)目次

| | |
|--|---|
| ポーランド週間を終えて | 1 |
| 小笠原正明「伊東孝之氏の講演に参加して」、第 8 期「ハリーナさんを囲む楽しいポーランド語」講習会 (1991.9.11～)のお知らせ | 2 |
| 灰谷洋子「好評だったポーランド料理講習会」 | 3 |
| 柏原朝子「内田莉沙子氏の講演を聞いて」、安田誠子「遠藤道子氏の《国際ショパンコンクールの歴史》を 聴いて」 | 4 |
| ポーランド国立放送交響楽団演奏会(1991.11.19)のお知らせ | 5 |
| 赤島尚子「ポーランド国立放送交響楽団北海道公演に寄せて」 | 6 |